

私 の 工 夫

「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりを目指して
情報活用能力育成の視点から

笠岡市立金浦小学校

指導教諭

篠原

孝昭



1 はじめに

本校では、新学習指導要領の全面实施に向けて、「主体的に判断し、よりよい人間関係を築くことができる児童の育成」自ら考える道徳の授業づくりを中心にして「」を研究主題に、道徳教育に重点を置いた3年間の実践を積み上げてきた。新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善には、「自ら考える道徳」にするために本校で重点としてきた「自分の思いや考えをもたせるための工夫」と「話し合い活動を充実させるための工夫」が不可欠であると考え、第4学年社会科「安全な暮らしを守る」の単元において授業づくりの工夫に取り組むこととした。

また、新学習指導要領の「思考



「主体的・対話的で深い学び」のある授業を目指して

力・判断力・表現力等の育成」を目指して、児童が主体的に考える場面を生み出すために「思考ツール」を取り入れ、情報活用能力育成のための手立てとして活用を工夫した。

本実践を通じて、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりの

ために、授業の進め方や工夫について自分自身の取組を見つめ直す良い機会となったので、実践の一端を紹介したい。

2 自分の思いや考えをもたせるための工夫

① フラッシュ型教材の活用

学習の初めの時間を使って、自作のフラッシュ型教材に取り組みさせた。資料活用能力の育成を図るために、交通事故の件数の変化や種類のグラフについて読み取る内容とした。

フラッシュ型教材は、ICTを活用した基礎的な知識の定着に効果的な教材であり、授業に向けてのウォーミングアップになり児童が意欲的に取り組むことができ、かつ、学習問題の解決に必要な知識の定着を図ることができるので、今後も有効に活用していきたい。

② 課題解決学習の充実

学習計画や提示した資料を学習コーナーに掲示し、導入時に前時までの学習を確認して振り返り、本時のめあてにつながるように活用した。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、児童が自分

の課題をもち、課題解決のために学習を進め、答えを導き出していくことが重要であると考える。そのためにも、児童が見いだした問いや学習計画に基づいて追究させていく学習活動を引き続き充実させていきたい。

③ 映像資料を活用した導入

児童が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるように、交通事故の現場に警察が急行する臨場感ある映像資料を提示した。児童には、視聴しながら気づいたことを自由に話してよいことを伝えた。児童は、視聴しながら学習内容につながるたくさんの気づきを話したりスクリーンを指さしたりし、興味をもって学習に取



映像資料に集中する児童

り組む姿が見られた。

視覚的な資料はどの児童にも分
かりやすく、興味・関心を喚起す
ることや、資料を見る際の視点を
与えることの大切さを改めて実感
することができた。

④ ワークシートの活用

110番の仕組みに対する理解
することができるようワークシ
ートを用意し、必要な言葉や矢印
を書き込ませた。児童は、書く活
動に慣れており集中して活動する
姿が見られた。

110番の仕組みの理解をより
確かにするためには、連絡の流れ
の順序を意識させてワークシート
に記入させれば、さらに活動が深
まったと考えた。ワークシートを
生かす発問の工夫も重要である。

⑤ 振り返りを大切に

振り返りの時間を確保し、「分
かったこと」「がんばったこと」
「友達から学んだこと」「もつと
知りたいこと」をノートにまとめ
させた。児童のノートには、「交
通事故が起きた時の、110番の
仕組みが分かった。」「班の友達と
協力して、チャレンジ問題ができ
た。」などの記述が見られ、学習
に意欲的に取り組んだ様子が感じ
られた。

今後、タイムマネジメントを

工夫しながら、振り返りまでの学
習過程を大切にしていきたい。

3 話し合い活動を 充実させるための工夫

① ペア学習の充実

交通事故が起きたときの対応を
連絡の流れや関連機関に気をつけ
ながらペアで話し合させた。その
際には、お互いのノートやワーク
シートを見せ合い、連絡の流れを
指さしながら考えを説明し合い、
お互いの共通点を確認するように
指示した。

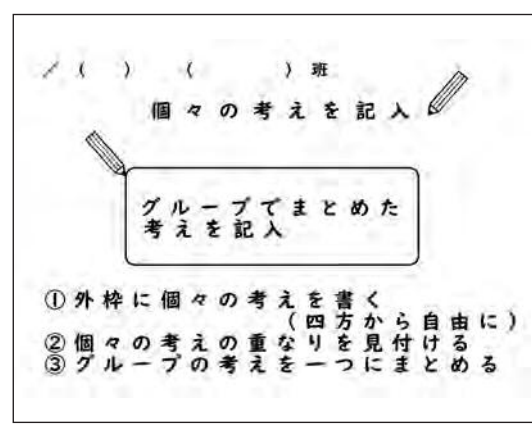
児童は、ペアの友達に説明する
ことにより、110番の仕組みの
理解をより確かなものにし、自分
の考えに自信をもつことができて
いた。そのため、全体的話し合い
でも分かったことを積極的に発表
しようとする姿が見られた。

② 思考ツールの活用

「110番のれんらくの仕組み
と、119番のれんらくの仕組み
のいてるところを見つけよう」
というチャレンジ問題を設定し、
グループで取り組ませた。

思考ツール「ボックスチャー
ト」を活用させたことにより、
個々の考えを自由に引き出し、
様々な考えの中からグループで一

つの考えとしてまとめることがス
ムーズにできていた。また、班の
中での役割分担を具体的に指示し
たことも、学び合いを円滑に進め
るために役立っていた。



「ボックスチャート」



児童の思考を可視化

また、各グループの考えは、全
体で情報共有し、自分たちにな
い視点に気付くことができるよう
にキーワードを板書してまとめた。

4 おわりに

本実践を行うに当たって、ペア
やグループの友達同士や、学級全
体で学び合うことのできる学習集
団作りを意識して取り組んだ。そ
のため、日々の学習規律の徹底
や学校生活や行事などを通じた人
間関係作り、また、学習環境とし
ての教室のユニバーサルデザイン
化やICT環境の整備など、当
り前のことの重要性を再確認する
ことができた。学習集団作りや教
室環境などの在り方について学校
全体で共通理解をし、全教員で高
まっていけるようになるように今
後も取り組みを進めていきたい。

また、「主体的・対話的で深い
学び」のある授業を実現するため
に、教材研究の大切さや、児童の
考えを引き出しそれらを集約して
いくことの難しさも改めて感じる
ことができた。児童に力をつける
ために、自分自身が「主体的・対
話的で深い学び」を実現できるよ
うに、様々な実践を通して、授業
力を磨いていきたい。